

## 第5章 授業評価の目的と目的別の授業評価シート

### 1 授業評価の目的

#### (1) 授業評価の目的

学校には育てたい生徒像に基づく教育目標があり、各学校ではそれを実現するために様々な教育活動を展開しています。教育活動の柱である学習指導においては、生徒の実態を考慮して、教科ごとに指導目標及びそれに基づく指導計画(Plan)を立て、授業(Do)を展開しています。本調査研究においては、それらの指導計画や授業の展開が適切であったかどうかを、授業評価(Check)や授業研究会を通して形成的に評価して、よりよい教育活動の改善(Action)に生かすという観点から実践研究に取り組みました。

授業評価の目的は、教員一人一人が自分の授業を振り返り、専門性を一層高めて、より質の高い授業や生徒の力を伸ばす授業をつくることにあります。また、授業評価を活用して生徒からの反応を引き出し、それに応えていくことで教師と生徒との双方向のコミュニケーションを図り、両者の信頼関係を築いて生徒の学ぶ意欲を育むことにあります。

言うまでもなく、授業評価は、数値化することや評価すること自体が目的ではありません。料理に腕を振った人が、その料理を食べた人に料理の出来映えや味について聞いてみたくなるように、授業に工夫を凝らした教師が、生徒に授業の出来映えを聞いてみたくなるのは至極自然なことです。そのようにして良い評価を得た料理人は次の料理に、そして教師は次の授業に、ますます意欲的に取り組むようになります。授業評価と授業改善が、そのような相乗効果を生むことが理想です。

#### (2) 生徒による授業評価を実践した方の声

総合教育センターでの基本研修の際に、生徒による授業評価を実施した先生から、感想を聞きました。第1章で、授業評価に関するアンケートから指摘された、授業評価の実施上の課題や懸念について述べましたが、次に挙げる実践者の声からは、授業改善に対する前向きな姿勢が感じられます。

#### 授業評価は授業改善に生かせる生徒の声を聞くチャンスである

- 生徒による授業評価を実施してみるまでは、生徒の評価能力に疑問を感じていました。しかし、実際に行ってみると、意外に素直な回答が多く、**授業改善に生かせる声を聞くことができました。**
- 自分が高校生だった頃は、授業評価というシステムはありませんでしたが、先生の授業が面白いとか、ためになるとかと判断(評価)したり、友人と話したりはしていました。そのときの見方や判断能力(評価能力)は、**その年代なりに、ある程度の確かさがあったように**思います。

### 授業評価は生徒との信頼関係づくりに役立つ

- 生徒による授業評価は、質問の内容によっては的外れな回答が出ることもあります。しかし、生徒の声を謙虚に受け止めれば改善に生かせるヒントを見つけることができます。
- 改善のヒントをもとに、実際に改善しようとすることを生徒に伝えて実践していくことで、教師と生徒との信頼関係が強まり、「教師批判の声」は少なくなると思います。そのことがより良い授業づくりにも結びついていくものだと思います。
- 授業は教師と生徒が双方向のコミュニケーションによってつくり上げるものであるという認識を共有することが大切だと思います。また、生徒の本音を引き出せるように、普段から生徒との信頼関係を築いていることも大切だと思います。

### 評価を授業改善に生かせば形式的な取組にはならない

- 生徒による授業評価を実施しても、やがては「形式的な取組」になるのではないかと危惧していました。しかし、実際にやってみると、**普段の授業を振り返る材料**が見出せました。
- 授業評価は、授業改善を通して生徒の学力を向上させることにつながるという前向きな意識で取り組めば、決して形式的にはならないと感じました。
- 教員自身が「授業評価」をやらされるという意識でいると「形式的な取組」になってしまうかも知れませんが、**授業改善に生かすという意識**を持って取り組めばよいことが分かりました。

### 授業評価の目的は点数化ではなく授業改善に生かすことである

- 学校全体で統一している質問項目に、自分で確認したいと思った独自の評価項目を加えて評価票を作りました。自分で作った評価項目については、やはり**結果や反応が気になります**。
- 自由記述の欄を設けて、生徒に生の声を書いてもらいました。授業に対する生徒の思いが書かれていて、**数値では表れないところにも授業改善のヒント**が見出せました。授業評価は、授業の品定めや点数化、数値化が目的ではなく、やはり**授業改善に生かすことが大切だと実感**しました。

### 工夫改善した点について評価すれば元気の出る授業評価になる

- マンネリ化した授業をしたときにの出来栄は、人に聞くまでもありませんが、何かしら工夫を凝らした授業をしたときには、**自ずと生徒の反応が気になる**ものです。
- 授業を工夫した時にこそ授業評価を実施して、成果と課題を検証して、さらなる工夫改善に生かしたくなるような、**元気の出る授業評価**にすることも大切だと思います。